

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(音楽)
／長島 真人

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

これまで、音楽科教育学担当者として、教科の思想と内容、方法に関して、学生たちが参加可能な授業内容を検討してきた。そこで、本年度は、授業内容としては、啓蒙を目的とした音楽科教育の特性という視点と、音楽科の授業の構想と実践において活かされる言語活動のあり方に視点を念頭に置いて授業を展開していきたい。具体的な計画としては、以下のような観点に留意する。

- ①音楽科教育の本質に関わる哲学と音楽授業の構想と実践の背景にある理論を主たる授業内容とし、学生や院生たちが自らの教育実践を省察していく上での拠り所となる根本的な発想や論理の枠組みを提供する。
- ②既に開発している音楽科の授業実践力評価スタンダードとカリキュラムマップをガイドラインとしながら、知識の獲得を目的とした学術的な講義と知識の応用と定着を目的とした演習(指導案作り、模擬授業、ロールプレイング等)を工夫していく。
- ③個々の授業の内容的な特性に基づき、知識の獲得状況を確認する筆記テストや、知識の定着状況を確認するレポートや演習課題を活用し、その取り組み状況や達成状況から成績評価を行う。

2. 点検・評価

- ①学部の「中等音楽科教育論」と大学院の「音楽科教育研究」の授業で、音楽科教育の実践の基礎となる教科論や教授学習論、学習指導過程論等の理論を紹介し、学生や院生たちが自らの教育実践を省察していく上での拠り所となる論理の枠組みが形成されるように努めた。
- ②すべての授業において、音楽科の授業実践力評価スタンダードとカリキュラムマップをガイドラインとしながら、講義では、できるだけシンプルな音楽の事例を扱いながら、音楽授業の実践に必要とされる知識の体系が獲得されるように努めた。また、演習では、指導案作り、模擬授業、ロールプレイング(模擬面接試験)を行い、知識の応用と定着を促すように工夫した。
- ③予定したとおり、個々の授業の内容的な特性に基づき、知識の獲得状況を確認する筆記テストや、知識の定着状況を確認するレポートや演習課題を活用し、その取り組み状況や達成状況から成績評価を行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

学校教育に対する今日的な社会の要請と学生・院生たちの個々の要求に注意を払いながら、授業の構想と展開、就職支援、課外指導、生活支援を継続的に推進していく。具体的な計画としては、以下のような観点に留意する。

- ①平成19年度に開発した音楽科の授業実践力のスタンダードと平成22年度に開発したカリキュラムマップをふまえながら、音楽科の教科論と授業論を扱う講義の見直しを継続する。
- ②講義だけでなく、演習として、教材分析や指導案作り、模擬授業、ロールプレイングを活用する工夫を継続する。
- ③演習の中で、具体的な作業課題を工夫し、多様なデータから評価が行えるように工夫する。
- ④就職指導として、小論文や自己アピール文等の執筆方法を個別に添削指導する。
- ⑤課外活動の支援として、鳴門教育大学フィルハーモニー管弦楽団の指揮者として、学生たちを指導し、演奏行事等に参加する。
- ⑥オフィスアワーや e-mail を活用して、学生の相談への対応や個別指導が円滑に行えるようにする。
- ⑦クラス担当教員として、キャリアファイルノートをガイドラインとして活用しながら、学生たちの修学や大学生生活に関する支援・指導を行う。

2. 点検・評価

- ①19年度に開発した音楽科の授業実践力のスタンダードをふまえながら、音楽科の教科論と授業論を扱う講義では、具体的な例示のために活用する教材を見直した。特に、歌唱共通教材の扱い方を見直した。
- ②講義だけでなく、演習として、教材分析や指導案作り、模擬授業、ロールプレイングを積極的に活用し、学生たちに向けての語りかけや問いかけを改善するように努めた。
- ③演習の中で、学生たちが取り組み可能な作業課題として、「手ぶら授業」や「模擬面接試験」等の課題を開発し、多様なデータから評価が行えるように工夫した。
- ④就職指導として、小論文や自己アピール文等の執筆方法を個別に添削指導を、例年通り、e-mailによって展開した。(就職指導)
- ⑤鳴門教育大学フィルハーモニー管弦楽団の指揮者として、学生たちを指導し、演奏計画の相談と演奏指導を行った。今年度は、卒業式の前に、演奏することができた。(課外指導)
- ⑥オフィスアワーや e-mail を活用して、学生の相談への対応や個別指導が円滑に行えるように配慮した。
- ⑦学部1年生のクラス担当教員としてキャリアファイルノートガイドラインとして活用しながら、また、携帯メールを活用しながら、学生たちの修学や大学生活に関する支援・指導を行った。特に、夏休み前に、大学キャンパス内での安全に関わる指導を行った。キャリアノートでは、対話的な指導を行うことができた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- 音楽科教育学担当として継続してきた教科の思想の歴史的、哲学的な研究と音楽授業の理論的な研究を推進していくと同時に、教師教育の改善をめざした研究を推進していく。具体的な計画としては、以下のような観点に留意する。
- ①継続研究である「19世紀アメリカにおける学校音楽教育研究」に関して、学会発表や論文執筆を行う。
 - ②継続研究である音楽科の授業理論の構築に関する研究を進め、学会等で発表する。
 - ③教育実践力の向上をめざす学生たちのための評価スタンダードの活用方法を検討する。
 - ④「教職実践演習」の内容とこれに直接的に関連していく「キャリアファイルノート」による学生生活支援のあり方について検討する。

2. 点検・評価

- ①継続研究である「19世紀アメリカにおける学校音楽教育研究」に関して、5月に開催された音楽教育史学会と10月に開催された日本音楽教育学会で学会発表を行った。また、5月に発表した内容は論文として投稿した。
- ②継続研究である音楽科の授業理論の構築に関する研究を進め、日本学校音楽教育実践学会で構想されている音楽教育実践に関わる辞典づくりに協力した。
- ③学部1年生の初年次教育に着目しながら、音楽科教育のエッセンスの抽出や、教育実践力の向上をめざす学生たちのための評価スタンダードの活用方法を検討した。そして、12月に学内で実施されたFDシンポジウムにおいて、この成果をパネラーとして紹介した。
- ④学部3年生と学部1年生の授業を通して、「教職実践演習」の内容とこれに直接的に関連していく「キャリアファイルノート」による学生生活支援のあり方について検討した。特に、学生たちの記述内容に対して、対話的な指導の方法を検討した。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 各種委員会活動やFDの活動、学生支援活動において、任務内容に即した活動を展開する。具体的な計画としては、以下の観点に留意する。
- ①各種委員会やコース内での運営に参画し、その任務内容を推進する。
 - ②大学の教師教育に関わる研修行事に参画する。
 - ③平成23年度学部入学生のクラス担当教員として、その任務を遂行する。

2. 点検・評価

- ①学生生活支援委員会の副委員長として、また、地域連携委員会の副委員長として、その任務内容を推進した。特に、「学園だより」の編集の主査を務めた。また、平成23年度全国学生指導担当教職員研修会に、大学の代表として出席した。さらに、講座内での運営に参画し、その任務内容を推進した。
- ②大学の教師教育に関わる研修行事として予定されているFD活動に参画した。12月に実施されたFDシンポジウムでは、パネラーをつとめた。
- ③平成23年度学部入学生のクラス担当教員として、合宿研修での指導や日々の履修指導、生活指導を遂行した。特に、夏期の夜のキャンパス内での生活や、大学祭の準備期の学生生活に関して、ルールに従って安全に過ごすように注意を喚起した。また、キャリアノートでの対話的な指導や個人面接、クラスワーク等を通して、生活支援を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

音楽科教育学の最新情報をふまえながら、附属学校や公立学校、学会組織の研究・運営活動に参画し、連携を深める。具体的な計画としては、以下のような観点に留意する。

- ①附属小・中学校の教育研究活動に参画し、事前の研究協議会や研究大会に参加する。
- ②日本学校音楽教育実践学会や日本音楽教育学会、音楽教育史学会、中国四国教育学会等において、学会の組織作りや研究大会の準備、紀要編集等に協力する。
- ③学部の教育実践コア科目である「初等中等教育実践基礎」と「初等中等教科教育実践Ⅰ」、「初等中等教科教育実践Ⅱ」、「初等中等教科教育実践Ⅲ」の講義を実施するために、教科内容学担当の教員と附属学校の教諭、公立学校の教諭と連携し、本学の教師教育のためのコア・カリキュラムの具体的な展開方法を工夫する。
- ④音楽科教育学の立場から、「免許更新講習」と「10年経験者研修」の講義と演習を計画し、実践する。

2. 点検・評価

- ①附属小学校で行われた校内研究授業に構想の段階から参画し、今年度の研究課題に向けた助言を行った。また、附属中学校の研究大会の研究発表と公開授業の準備に参画し、当日は助言を行った。
- ②日本学校音楽教育実践学会の四国支部理事として、学会の運営に参画し、今年度も、8月に開催された学会では、研究発表の司会を行った。また、音楽教育史学会の編集委員として参画し、論文集編集の作業を遂行した。さらに、今年度からは、日本教科教育学会の教科理事と中国四国教育学会の理事を務め、その任務を遂行した。
- ③学部の教育実践コア科目を推進していくために、教科専門の教員と協同的な授業を展開する工夫を継続し、講義の内容と方法の改善を継続的に実施した。
- ④音楽科教育学の立場から、「免許更新講習」と「10年経験者研修」の講義と演習を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

今年度も、音楽科教育担当の教員が1名欠員しているために、多くの授業を担当することになったが、それぞれの授業場面で、適切に対応することができた。また、人事の選考委員を五つ担当し、その任務を適正に果たすことができた。地域連携委員として、学生たちに積極的に働きかけることによって、参加者が少ないと指摘された徳島県内の大学と徳島県教育委員会との連絡協議会の事業である「教職キャリアアップ合同研修会」への本学の学生たちの参加人数を大幅に増加させることができた。中日教師教育学術研究会の準備に参画し、その任務を遂行することができた。